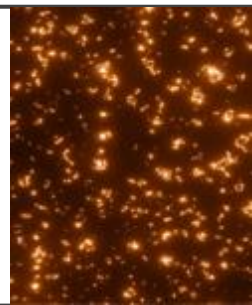


2026年9月16日
株式会社SVPジャパン

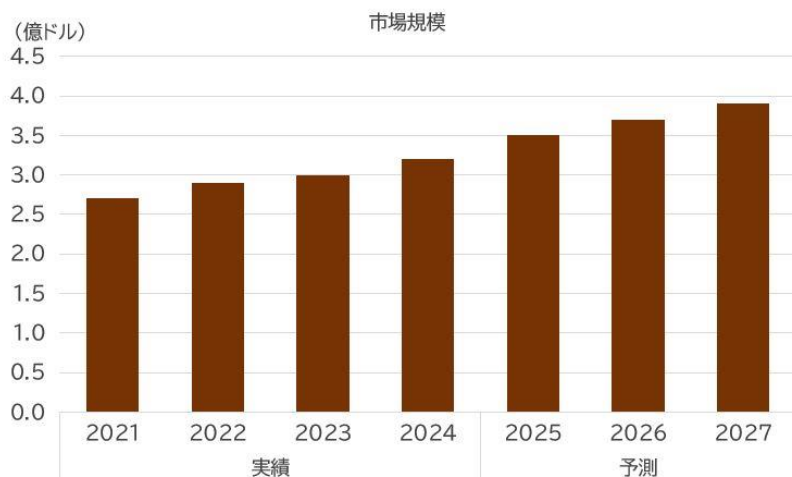
SVP注目市場分析 「核融合」を公開

～産業化へと動く市場、研究基盤と供給力で存在感を高める日本～



会員制マーケットリサーチサービスを提供している、株式会社SVPジャパン（本社：東京都中央区、代表取締役社長：橋本 雅、以下「SVPジャパン」）は、本日、SVP注目市場分析レポート「核融合-世界市場の現状と将来展望-」を、会員企業向けに公開いたしました。

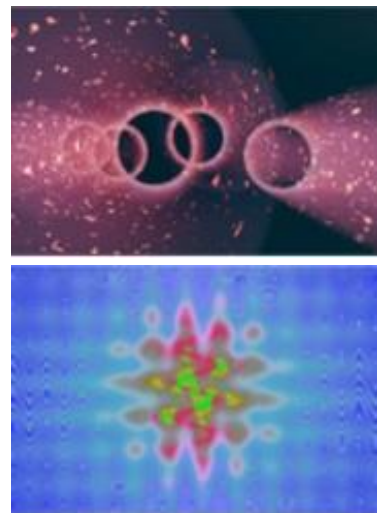
■ 核融合の世界市場



重水素や三重水素などの軽い原子核を高温・高密度下で融合させ、生じるエネルギーを利用する核融合。発電時にCO2を直接排出せず、燃料資源の制約も比較的小さく、脱炭素とエネルギー安全保障の両面で高く期待される技術である。現在の市場は、核融合発電の実用化に向けた研究開発・実証プロジェクトや、それらを支える装置・部材の供給を中心に形成され、2024年の世界市場は3.2億ドルと推定される。各国の政策支援や民間投資を受け、基礎研究が中心であった市場は産業化準備段階へ移行しつつある。今後は実証炉やパイロットプラントの建設進展に伴い、関連装置・部材や計測・制御システム、エンジニアリングなど周辺市場の需要拡大が見込まれる。技術実証から事業性、供給体制までを含む産業基盤の構築が、商業化ならびに市場形成のカギとなる。

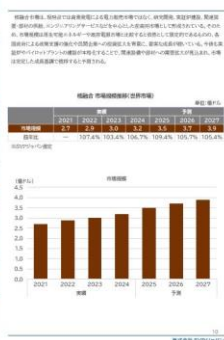
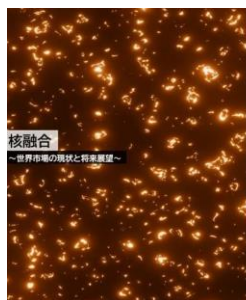
■核融合の市場概況

核融合市場では、従来の公的研究主導から、官民連携による産業化フェーズへの移行が進む。各国が2030年代の実証炉運転や商業化を見据える中、米国を中心にスタートアップの参入・資金調達が活発化し、開発競争が進む。競争の焦点は技術実証だけでなく、資金調達力やサプライチェーン構築力へと広がりつつある一方、商業化には経済性、燃料供給、制度整備、人材確保など課題も残る。世界有数の研究開発基盤を有し、超電導技術などに強い日本では、核融合を将来の成長産業と位置づけ、事業化支援も強化されている。こうした研究基盤に加え、スタートアップや大手製造業の参画が進む中、関連機器・部材の供給力を活かし、日本が世界の核融合サプライチェーンならびに市場における存在感を高めていくことが期待される。



■本レポートの構成

- I. 市場の定義
- II. 市場動向
- III. 市場規模・予測
- IV. マーケットシェア
- V. 参入企業の動向
- VI. 業界構造
- VII. 課題
- VIII. 日本市場の動向



←レポート全編を見る クリック

※本サービスのご利用は、
SVP会員様限定でございます。

■購読について/資料ダウンロード・お問い合わせ

本サービスのご利用は、SVP会員様限定でございます。
購読をご希望の場合、当社SVP会員になっていただきますと、定期的に配信する市場調査レポートを全てご購入いただけます。なお、SVP会員は、ビジネス調査に関する、クイックリサーチとプロジェクトリサーチもご利用いただけます。

資料請求

お問い合わせ



■ 次回のテーマ

10月のテーマは「二酸化炭素回収・貯留（CCS）」と「直接空気回収（DAC）」を予定しています。

～SVP注目市場分析レポート更新スケジュール…毎月第1・第3水曜日の発刊を予定～

[会社概要]

社名 : 株式会社SVPジャパン
代表取締役 : 橋本 雅
所在地 : 東京都中央区日本橋蛸殻町1-38-9 宮前ビル2F
設立年月日 : 1974年7月1日
事業内容 : 会員制のビジネス情報提供サービス
URL : <https://www.svpjapan.com/>

[本プレスリリースに関するお問い合わせ先]

株式会社SVPジャパン DX推進部 デジタルマーケティング課
info@svpjapan.com